

平成 30 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

(100 点)

【採点のポイント】

- ・食の未来に関する自分の考えとその理由が明確に書かれているか。
- ・要約された文章で、以下の 3 点のことが書かれているか。
 - ・生業の近代化は自然の摂理からの乖離の過程であったこと。
 - ・現代の農業生産は化石燃料に支えられていて、今のままで持続することは難しいこと。
 - ・都市の人々の食は外食や中食によって支えられていること。

【解答例】

生業の近代化は、自然の摂理からの乖離の過程でもあった。今日の「野菜工場」には温度、湿度、光の制御などの現代の技術の粋が込められているけれども、「野菜は太陽光を受けて大地で育つ」という、農耕が始まって1万年来変わらなかった原則からはずれている。牧畜の世界でも生殖のコントロールが進んでいるし、鶏卵は遺伝的な改良と餌や光の制御によって計画的安定的に生産されるようになっている。

こうした技術革新、農業生産の増加は電気に支えられていて、現代の高い農業生産が今のままのスタイルで持続するとは考えられない。なぜなら電気は化石燃料によっており、資源量は有限であり、決して多くはないからである。現代人は、何千万年、何億年というスパンで作りに上げられてきた地球システムを、循環の速さを高めることで、数百年というスパンで使いきろうとしている。

人類が発明したインフラのひとつとしての「都市」には世界人口の半数を超える人びとが住んでいると言われる。都市の人々は自らの食を他者に依存している。人口密度が高くなることによって1家族当たりの占有面積は狭くなり、その結果、台所も縮小し、調理の種類も限定されることになる。さらに、現在、世界の大都市に住んでいる人びとの食は、外食と、電子レンジや冷蔵庫などに支えられた冷凍食品を含む中食に支えられているといっても過言ではない。

以上のことから、生産者には持続可能な自然エネルギーによる農業生産にする努力が求められる。また、消費者には生産者と消費者が連携する産直や道の駅、観光農園等を通じて、地産地消を促進し、住んでいる地域や県の農業にもとづいて食を営む必要がある。さらに地域の行事や食のイベントを行うことによって、国や地域などの自然や風土、地域文化、人間関係に根ざした食の営みと継承が可能になるに違いない。

(790 字)